広島大学学術情報リポジトリ
Hiroshima University Institutional Repository

Title	助動詞「た」についての学習 : 中国語話者の立場から
Author(s)	曹, 珺紅
Citation	日本語・日本文化研修プログラム研修レポート集 , 1997 : 27 - 33
Issue Date	1998-03-31
DOI	
Self DOI	
URL	https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00039548
Right	
Relation	

助動詞「た」についての学習

中国語話者の立場から

曹 珺 紅

現代日本語では「た」は助動詞として、動詞、形容詞、形容動詞及び一部の助動詞の連用形に接続して、「過去」或は「完了」を表すものといわれる。アスペクトとかテンスとかいった文法範疇に属して、文法研究の中では良く注目されてきて、いろいろな説がある。簡単に見える助動詞「タ」が、実は複雑な意味、機能を持っている。

ところが、中国語は語態変化がなくて、文法形式としてのテンスを持たないし、日本語の述語がル形とタ形という文法的な形式的対立を以てするテンス表現に対応するものは、中国語にも存在しない。

では、中国語を母語とする学習者はいったいどのように勉強したら、もっと全面的に、もっと分かりやすく理解できるだろう。

一

まず、助動詞「た」について従来の研究を振り返ってみよう。その本質の規定の仕方は、およそ次のように分けることができるようである。

A一義的に規定しようとするもの。

1、過去を表すとみる（テンス説）

2、完了を表すとみる（アスペクト説）

3、話し手の判断のしかた、立場の表現とみる（ムード説）

B多義的に規定するもの。

具体的に言うと、鈴木重幸（1965）、金田一春彦（1957）、鈴木英夫（1970）の説は、テンス説と言って良いであろう。金田一は現在、過去と言う初期の「素朴」なものを修正して、‘非以前・以前’という観点での特徴づけを提唱したが、鈴木は更にこれに‘認定’と言う概念を補足し、タは「状態の存続や動作、作用の生起、終結についての認定を基準となる時点の以前になしたということを表す」ものだとした。

このテンス説に対してむしろルとタの対立は‘未完了・完了’という動作・作用の‘ありよう’にかかわるものと見るべきだとする考え方が早くから出されている。たとえば、松下大三郎は一段と明瞭にタは「現在・過去・未来、不拘時のどれにも用いられて、その完了を表す」とし、このようにタがいろいろの‘時’に用いられるのは、判断主体たる「我」をどこに置いて考えるかによるのであると説いた。注目すべきことは、完了と言い、過去と言っても、結局は話しての立場と言うことなしに考えられないことが早くも明示されており、後の研究に与えられた影響は大きいと言わねばならない。

次に「タを時に関わるものだ」とする考え方に対する、いま一つの批判、いわばムード説に移ろう。

この先駆けをなしたと言うべきものは、言うまでもなく山田孝雄「日本文法論」の中の「文法上の時の論」であろう。これは単に日本語動詞のある形が過去時を表すのか完了態を表すのかといった、いわば解釈的な議論を越えて、ある言語形式を‘時’と言う文法範疇で特徴付け分類することが一体適当であるかと言う基本的な問題を衝いた。「時の基本概念」について、山田は、「現在」を表すとされている用法も正しくは「思想の直接表象」すなわち「回想もせず、意識其の者直接の活動によりあらはされたる思想」と把握すべきだと言う。「過去」についても、その形が表すものは決して客観的な事実ではなく、正しくは意識の「回想作用」と言うべきものであると断じた。

今日、内外の文法家で、いわゆるテンスという範疇が、ムードと切り離して考えられないことを認めているものは多い。時枝誠記も「過去及び完了と云へば、客観的な事柄の状態の表現のやうに受取られるが、この助動詞の本質は話手の立場の表現である」と山田説への共感を示している。

さて、以上の説はタを一義的に捉えようとする点で共通している。これに対して二つ或はそれ以上の別のあることを認める立場もある。実例についての観察に基づいて、ルとタの対立を整理した中で詳しく明快なのは、三上章氏の次の分類であろう。（初めが‘タ’後が‘ル’）

一、事実としての完了

二、心理的な完了と未了

三、期待の有無

四、想起と主張

五、儀礼的な問いとただの問い

二

以上従来の研究を簡単に紹介したが、今は日本語の「タ」がタンス、アスペクト、ムードなどの意味を持ち合わせている形式だと言うことは大なり小なり、程度の差こそあり、大勢に認められていることである。

では、学習する時、「タ」にいったいどういう具体的な用法を学ばなければならないのか、調べてみよう。

一）過去を表す。

イ、動作・作用が過去の事柄であること

1、昨日は雨が降った。

2、日曜日町へ買い物に行った。

3、そのことは一か月ぐらい前に新聞で読んだことがある。

ロ、ある状態は過去であること

4、そのとき、王さんはまだ来ていなかった。

5、今朝、家に着いた時、姉はもう上海から帰ってきていた。

二）完了の意味を表す。

イ、現在、動作・作用が完了したこと。また、ある状態が完了したことを表す。

6、あ、電車が来ました。

7、見つけたぞ。

8、また失敗してしまった。

9、やっぱりここにあった。

10、わかりました。

11、今聞いたところです。

12、もう家に着いただろう。

ロ、問題になる時点で、動作・作用が完了し、実現することを表す。

13、この次に休んだところで写真を撮ります。

14、花が咲いたら、またこよう。

15、人から借りたものはすぐ返しなさい。

ハ、未然のことについて実現を想定する。

16、煙草をやめたほうがいいよ。

17、叱られたところで、たかが知られている。

18、言いたいことがあったら言いなさい。

19、向こうに着いたら電話します。

20、王さんは教室を出て、図書館へ行ったものか、寮へ帰ったものかとちょっと佇んだ。

三）回想を表す。

イ、存在詞「ある」、「いる」、そのほか「できる」などの状態動詞の場合。

21、子供の時、このあたりに店が何軒もあった。

22、私はやっと、その名優に巡り逢うことができた。

23、昔、ここは河原だった。

ロ、形容詞や名詞に断定のついた形である場合。

24、彼は欲ばるおじさんであった。

ハ、動作動詞でも、打ち消しや「ている」、「受け身」などのついた形は状態性を帯びて、回想意識が生まれる。

25、中学生のごろ、よく先生に叱られた。

26、私は最年長だったのものですから、いつも矢面に立たされました。

27、そのごろ私は大阪に住んでいた。

ニ、継続動詞の場合、特に意志を表す動詞、或は動作の発生、終始を表す動詞

28、自費留学生だったので、毎晩のようにアルバイトをした。

29、若い時は一日五十キロ歩いた。

四）断言や決意を表す。決意をすでに実現したことのように言う。話し手の心理内容がきわめて高められた表現。終止形しかない用法で、動作動詞「タ」にのみ見られる。

イ、相手への要求を表す。命令のひとつの言い方。

30、ちょっと待った。

31、さっさと帰った、帰った。

ロ、自分の決意を表す。

32、よし、それ、買った。

33、一、抜けた。

五）あることに気がついたばかりで、

34、お名前は何とおっしゃいましたか。

35、へえ、おまえも来ていたのか。

36、なんだ、王さんだったか。

六）過去の状態について、実現の可能性を主張する気持ちを表す。多くは「のに」、「ものを」などを伴う。

37、山田さんなら、できたかもしれないのに。

38、私があそこにいたら、きっと助けてやった。

39、よく復習したら、満点をとったはずだ。

七）感嘆詞みたいな用法

40、やっぱり来てよかった。

41、まったく残念でしたね。

八）（連体修飾語の形で）状態を表す。「・・・ている」に置き換えることができる。

イ、動作・作用が行われた結果の、また動作・作用の実現している状態であることを表す。

42、帽子をかぶった人

43、よく冷えたビール

ロ、そのもの、事柄の属性としての状態を表す。

44、優れた文化

45、高く聳えた山

これらの用法の中で、どれがテンス的、どれがアスペクト的、どれがムード的な用法かというと、もともとテンス、アスペクト、ムードというのは分かち難い性質のものなので、精密に線を引いて分けることはできない。しかし、概略 一）はテンス的、二）はアスペクト的、三）から

八）まではムード的であると考えておこう。

三

テンス的、アスペクト的な「タ」は、話し手の複雑な心理の表出と考えられるムード的な「タ」と比べると、比較的客観的な「時」またはコトのありようの認識表出と考えられるものであった。学習する時も、ここが出発点となる。しかし、「ご飯を食べた」という文を見て、この「タ」は完了か過去かというような疑問が生じる。

この問題を解決するには、寺村秀夫の研究が非常に役立つと思う。寺村氏はテンス的な「タ」とアスペクト的な「タ」の意味・機能を、(1)述語詞にどのような種類があるか、(2)「タ」が主節または独立文の述語において現れるか、それとも文の一構成要素の中で現れるかという二つの角度からいろいろ調べてみている。

まず、日本語の述語を次のように分類する。

①動詞的述語：　a，動作、でき事の動詞・・・食ベル・来ル・始まル・・・
　　b，状態の動詞・・・あル・居ル・できル・・・
②形容詞的述語：a，イ形容詞・・・アツイ・ウレシイ・ナイ・・・
　　b，ナ形容詞・・・元気・短気・呑気・・・
③名詞的述語：　a，形容詞性のもの・・・病気・曇り・うそ・・・
　　b，措定・指定に使われるもの・・・机・動物・たろう・・・

ル・タの対立の、アスペクト的・テンス的側面については、このような述語の種類によって違いが見られたが、それを表示すると次のようになる。

		動作・できごとの動詞の述語の場合	状態動詞・形容詞名詞の述語の場合
文節（文末）に現れる「タ」		完了または過去を表す（副詞がなければ二義的）	過去を表す
従節に現れるタ	主節が過去の場合	完了を表す	主節と同じ（過去）――この場合は「ル」と置換可能――またはそれ以前を表す
	主節が非過去の場合	完了または過去を表す	過去を表す

つまり、主節の場合、「昨日ご飯を食べた」の「タ」は過去で、「もうご飯を食べた」の「タ」は完了を表すが、副詞がなければ、二義的である。これに対して、「蒸し暑かった」や「病気だった」のように形容詞のタ形、名詞・形容動詞に続いた「ダッタ」のほうは、言葉のご

く普通の意味での過去の表現と見てよい、ということが分かった。

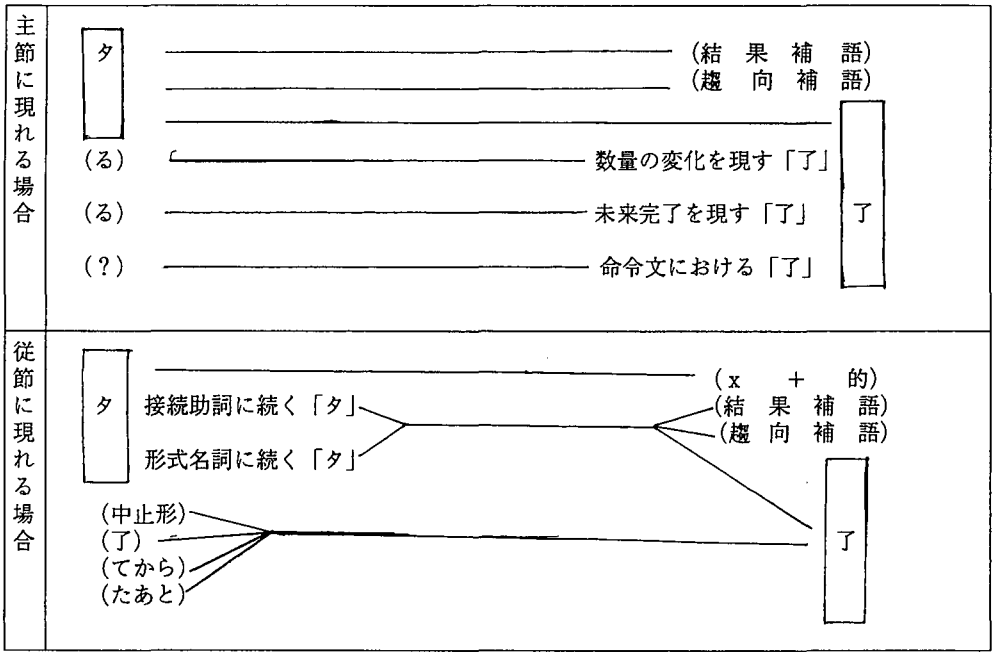
四

外国語を学習する時、母語と比較しながら勉強すれば、学習しやすい。もちろん母語の干渉で間違う時も少なくない。二つの言語の間には対応するものもあるが、絶対一対一のような簡単な関係ではない。

中国語には、過去・完了を表す「了」、「過」という助詞がある。では、「了」と「タ」と比べてみたら、どうだろう。

対照研究の立場に立って、この「タ」と「了」の対応関係を考察したものに王宏がある。王宏は(1)テンス(2)アスペクト(3)ムードと分けて、「タ」と「了」との対応関係を詳細に記述した。そして次の①から④の結論を導き出した。①過去を表す場合、日本語では「タ」を用いるが、中国語では「了」を用いない。つまり「タ」と「了」が対応しないのである。動作動詞が述語になる場合、日本語では「タ」を用い（過去を表す）、中国語では「了」を用いるが、しかし、この場合の「了」はアスペクトを表すものである。②アスペクトを表す「タ」と「了」はかなり対応しているが、しない場合も少なくない。③ムードを表す「タ」と「了」は対応的な用法がある一方、非対応的、或は完全に対応しない用法もある。④「タ」と「了」は主節においては、わりと対応するが、従節においてはほとんど対応しない。

また、張麟声はかなり対応しているアスペクトに焦点をあてて、更に「タ」と「了」を比較した。両者の対応関係を図で示すと、およそ次の通りである。



以上の研究結果を見て、両者は対応するところもあり、対応しないところもあるという事が分かる。日本語の助動詞「タ」を勉強する時、中国語の「了」のことばかり考えると、理解できな

いところが多く、混乱する原因になると思う。学習する時、必ず注意してほしい点である。

五

最後に、日本語における時間区分のことについて、紹介しておきたい。これを頭に入れれば、「タ」のことが理解し易くなるかもしれない。

一般に、時間の流れに対して、「過去・現在・未来」の区切り方をし、言葉の表現においても、過去は「・・・した」、現在は「・・・する」、未来は「・・・するだろう」と使い分けるものと思われている。話し手の表現行為をなす現時点を「現在」として、それ以前のことを「過去」、以後のことを「未来」とする分け方は現実区分であると言える。

一方、日本語の表現における時間区分はどうかというと、日本語の「時の表現」は必ずしも現実の時間の区分「過去・現在・未来」に対応して、語の使い分けがなされているわけではない。かえって、まったく違う観念で区別がなされているのである。例えば、

	a	b
46、	明日一番早く学校へ来た人に	ご褒美をあげよう。
47,	来年、花の咲いた時	また来よう。

上の文章はそれぞれａ，ｂ二つの動作行為が含まれていて、現実の時間から見れば、いずれも未来のことで未成立である。しかし、だからと言って、「・・・だろう、・・・しよう」がａにもｂにも付くわけではない。日本語表現の場合では、ａはすでに成立したこと（話し手の観念として）と処理し、「タ」をつける。これは、ａの行為とｂの行為の時間的な成立順序は、ａが先で、ｂが後になって、「ａが成立した後で、ｂを行う」のである。つまり、ｂを行う状況は「ａが成立してそれから生じる場合である」。

中国語の場合にも、同じような現象が見られる。例えば、

	a	b	
48、	到了那児、	打個電話来。	（向こうに着いたら、電話して下さい）

「到」と「打」は共に未来の動作行為なのに、「ａが成立した後でｂが行われる」から、ａに「完了」を現す助詞「了」をつけている。

もちろん中国語と日本語の時制は、これまでに述べた通りとても複雑である。しかし、「相対的」と言う点では、日本語の「タ」と中国語の「了」には共通しているところもある。この共通点を理解したら、「タ」を勉強する時、もっと分かりやすくなるかもしれないと私は思う。

参考文献

(1)寺村秀夫「‘タ’の意味と機能」
(2)基礎日本語辞典
(3)王宏「日語‘タ’和漢語‘了’的対応関係」
(4)張麟声「中日両語のアスペクトーーー‘了’と‘タ’を中心に」